

## 学校における障がいのある人との交流

### 1. 平成 29 年度の取り組み

こどもの頃から障がいのある人と接する機会を増やし、障がいへの理解を深めてもらうため、障がいのある人と交流を行う学校に対し、ゲストティーチャーへの謝礼補助を実施（7校9回実施）。

| No. | 学校名・学年             | 内容             | 講師              |
|-----|--------------------|----------------|-----------------|
| 1   | 結小学校（秋葉区） 6年       | 視覚障がいのある方からの講話 | にいがた盲導犬ハーネスの会   |
| 2   | 小林小学校（南区） 4年       | ブラインドサッカー体験    | 新潟県ブラインドサッカー協会  |
| 3   | 木戸小学校（東区） 6年       | 視覚障がいのある方からの講話 | 盲導犬ユーザー         |
| 4   | 早通小学校（江南区） 6年      | 聴覚障がいの理解と手話を学ぶ | 亀田手話サークルたつのこ    |
| 5   | 曾野木小学校<br>（江南区） 3年 | 視覚障がいについての講話   | 障害者自立支援センターオアシス |
| 6   |                    | ブラインドサッカー体験    | 新潟県ブラインドサッカー協会  |
| 7   |                    | 聴覚障がいのある方との交流  | 曾野木手話サークル       |
| 8   | 沼垂小学校（中央区） 4年      | 視覚障がいのある方からの講話 | 盲導犬ユーザー         |
| 9   | 曾根小学校（西蒲区） 4年      | 視覚障がいのある方からの講話 | 盲導犬ユーザー         |

### 2. 現状と課題の把握、ワーキンググループでの検討

今年度、補助を実施した学校に対し、アンケートを依頼。その内容を踏まえ、現状と課題、今後どのような取り組みを行うべきかワーキンググループで検討。

（学校の意見）

- 各学校で既に様々な取り組みが行なわれている。
- 障がいのある方と交流する機会を作りたいが、その謝礼を予算化する余裕がない。
- 取り組みの重要性は理解していても、どのように取り組めばいいか迷ったり、新しい赴任先の場合など、誰にゲストティーチャーをお願いできるのか、どこに相談したらいいのかわからない。
- 講師を依頼できるリストがあると参考になる。

（ワーキンググループの意見）

- 視覚障がいや聴覚障がいを取り上げられることが多いが、知的障がいや精神障がいについても理解して欲しい。
- 小中学校だけでなく、保育園や高校、PTAなどにも働き掛けてはどうか。
- 講義だけでなく、一緒に何かを体験できるような内容にすることで自然に理解してもらえと思う。

### 3. 来年度の取り組みの方向性

- 引き続き、障がいのある人と交流を行う学校に対し、ゲストティーチャーへの謝礼補助の実施
- 障がい福祉施設や障がい者団体に照会をかけ、ゲストティーチャーを依頼できる「講師・内容リスト」を作成し、小中学校や保育園や高校、PTAへ配布する。
- 取り組み事例を蓄積し、取り組みを共有化する。